

## JINGUからのエコへの2つの提案

近年、エコに関するさまざまな取組みが企業、個人レベルで毎日のように取りざたされています。そこでJINGUが考えるエコロジーな2つの提案です。



[M・ベンツE320 CDI]

メルセデスが永年に渡って開発進化を続けて来たディーゼルエンジンに更に磨きを掛けて登場させたモデル。それがE320 CDIです。

空気を汚すイメージが強かったディーゼルは、このモデルではもはや過去のものでず。気になる走行性能も、決して走りを犠牲にして環境を重視しているわけではなく、むしろ自信のあるポイントです。

ピエゾ式インジェクターを搭載した第3世代コモンレール方式を採用し、55.1kgmのE500並の大トルクを僅か1600rpmの低回転で発生させます。相性の良い電子制御式7速ATとの組み合わせにより、ディーゼルと侮れない走りを発揮します。トヨタなどの国内メーカーが得意とするハイブリットとは技術的にむしろ対極にある、昔ながらの内燃機関ですが、それ故アナログ特有の温かみが所有欲を満たしてくれます。

肝心の燃費は実に1タンク1000km! 給油の煩わしさからも開放されます。

ちなみに知ってる方もいらっしゃると思いますがヨーロッパでのディーゼル人気は非常に高く、実に新車の50%以上がディーゼル車なのです!

メルセデスの70年以上にわたるディーゼル技術から送り出されるクリーンディーゼル車「CDI」が今、神宮からお客様への新たな提案の形です。



### [空冷ポルシェ]

空冷ポルシェをエコで乗る・・・。これは矛盾していると思われるかもしれませんが、いやいやそんな事は有りません。某社のTVCMで”エコを考えて車を替えよう”ってCMが良く流れていますが、こんな行為が本当にエコでしょうか?

いいえ、違います。古い車を大事に乗り続ける事もエコだとは思いませんか? 諸説有りますがポルシェが創業以来生産した車のうち、実に約7割ものポルシェがまだ世界中を走っているそうです。

これってすごいことだと思いませんか? それだけポルシェの商品価値が高いとも言えますが、機械的に耐久性が高い事の裏打ちとも言えます。

不思議な有機的な温かみを感じる事が出来る空冷エンジンのポルシェを所有してみませんか?

TEXT/横山・小澤

